

日本地学教育学会 2022年度 第6回 常務委員会 議事録

日 時：2023年7月26日（水）18時00分～20時19分

場 所：ZoomによるWeb会議

出席者：川村教一，松本一郎，藤岡達也，上栗伸一，澤口 隆，清水政義，菅原久誠，高橋 修，中林俊明，西浦慎悟，平田豊誠，廣木義久，藤原 靖，松本現，宮下 治，宮脇亮介，吉本直弘，米澤正弘（計18名）

議 題：

1. 前回（2022年度第5回）議事録（案）の確認

2. 国際文献社との業務委託契約について（吉本）

国際文献社との業務委託契約の覚書について、『地学教育』『みんなの地学』の別刷・超過頁料金の請求および徴収に関する項目の追加案が提案され，了承された。国際文献社に追加案を提示し，覚書の修正について協議していくこととした。

3. 『地学教育』のJ-STAGEの電子付録機能導入について（上栗）

『地学教育』のJ-STAGEの電子付録機能導入のお知らせ（案）および『地学教育』の投稿規程の追加案について審議した。電子付録機能導入にあたって既存の付録は廃止する。利用料金は著者負担とし，電子付録の責任は全て著者が負うこと，電子付録の有無やその内容は論文の審査とは無関係であることなどを確認し，了承された。

4. 2023年度日本地学教育学会学会賞・学術奨励賞選考結果について（高橋）

2023年度日本地学教育学会学会賞・学術奨励賞の審査委員会（審査委員長：高橋 修常務委員）による選考結果が報告され，候補者2名の受賞について了承された。

【優秀論文賞】

受賞者：永沢亜矢子会員・伊藤 孝会員

論文名：月の見え方を捉えるための「二つ折り月と太陽モデル」の開発と単元構成の工夫  
掲載巻号：『地学教育』第75巻第3号

【若手学術賞】

受賞者：西澤 輝会員

論文名：生痕化石を用いた授業の開発と実践  
掲載巻号：『地学教育』第75巻第2号

高橋審査委員長より，原著論文と資料論文が混在する中で優秀論文賞の審査をすることの難しさについての指摘が審査委員会であり，審査規準について常務委員会で検討してほしいのと意見があったことが報告された。2023年度の常務委員会で優秀論文賞の審査規準

を検討することとした。

5. 日本地学教育学会賞表彰に関する細則の改正（案）について（吉本）

日本地学教育学会賞表彰に関する細則に若手優秀発表賞を追加する改正（案）について審議した。若手優秀発表賞の対象者を「全国大会における優秀な研究発表の発表者で若手の者」とし、日本地学教育学会賞に追加することが了承された。これを受け、滋賀大会から若手優秀発表賞の審査を開始することを決めた。

6. 2024年度全国大会開催地について（川村）

2024年度の全国大会を、2024年8月18日（日）、8月19日（月）に大分県大分市で行うことが提案され、了承された。併せて、地学教育の振興および地学の普及を図っていくために、会員数にかかわらず様々な都道府県で全国大会を開催していくことが重要との認識に立ち、全国大会実行委員会に対する支援策検討プロジェクトチームの設置が提案され、了承された。

7. 2023年度日本地学教育学会役員選挙結果について（宮下：澤口代）

2023年度日本地学教育学会役員選挙結果が報告され、評議員会ならびに総会で審議していただくことを確認した。

8. 2023年度総会資料（案）について（澤口）

2023年度総会資料（案）を確認し、表記等を適宜修正の上、了承された。

9. 2023年度役員名簿（案）について（澤口）

2023年度役員名簿（案）を確認し、了承された。川村会長より、学会運営についての貢献が明確ではない役員がいるとの指摘が会員からあったとの報告がなされた。各役員の本務の状況等を踏まえると、すべての役員が学会運営に等しく関わることは難しいが、積極的に関わる役員を推したいというご意見として受け止めた。

10. 支部長選出のお願い（評議員会資料）について（澤口）

継続審議となっていた支部長の選出について、評議員会の資料案を確認し、了承された。評議員会で支部長の選出やあり方について審議していただくこととした。

11. 第37回日本天文教育研究会への後援依頼について（吉本）

日本天文教育普及研究会からご依頼があった第37回日本天文教育研究会への後援について了承された。また、後援依頼の事務簡略化について前向きに検討を進めていくこととした。

12. SDGs, ジオパークと地学教育に関するオンライン・シンポジウム企画（案）について（川村）

SDGs, ジオパークと地学教育に関するオンライン・シンポジウムを 2023 年 10 月 22 日（日）に開催することが提案され、了承された。

13. 会勢および会計について（中林）

入会者は 0 名、退会者は 11 名であった。また、2023 年度入会希望者 2 名について承認された。

\*正会員 392, 購読有料会員 22, 購読無料会員 23, 学生 8, 在外 0, シニア会員 70, 名誉 3:合計 518.

2022 年度の渡部景隆基金の収支状況が報告され、了承された。

13. その他

なし

報告：

1. 各種委員会報告

1) 地学教育編集委員会（上栗）

論文の審査状況ならびに『地学教育』第 76 巻第 1-2 号の発行準備状況について報告された。

2) みんなの地学編集委員会（廣木）

『みんなの地学』第 4 号の発行ならびに第 3 号の J-STAGE での公開予定について報告された。

2. 日本地学教育学会・日本天文教育普及研究会合同近畿支部会の実施報告（吉本）

日本地学教育学会・日本天文教育普及研究会合同近畿支部会が、2023 年 6 月 25 日（日）に大阪教育大学天王寺キャンパスにおいて対面と Zoom によるハイブリッドで実施したことが報告された。参加人数等は以下の通りである。

参加人数 56 名（対面 21 名、オンライン 35 名）

日本地学教育学会会員 20 名（内オンライン 12 名）

日本天文教育普及研究会会員 29 名（内オンライン 17 名）※両学会所属者を含む  
無所属 9 名（内オンライン 5 名）

3. 小学校理科に関するオンライン・シンポジウムの実施報告（川村）

2023 年 7 月 2 日（日）に「水害多発時代の学校における水害の教育に関するシンポジウム -小学校理科の学習の改善を目指して-」と題するオンライン・シンポジウムを実施した

ことが報告された。参加者数は46名であった。また、事後アンケート調査の結果が報告された。

#### 4. 滋賀大会の参加申込状況について（藤岡）

滋賀大会の参加申込状況について報告され、引き続き大会の周知と参加へのお誘いを進めていくこととした。

#### 5. 海外巡検参加申込状況について（吉本）

海外巡検参加申込状況について報告された。また、今回の海外巡検を機に本学会に入会される参加者がおり、本巡検が新規会員の獲得にも寄与することが報告された。

#### 6. その他

##### 1) 学会の問い合わせ先について（川村）

本学会の Web サイトで公開している問い合わせ先を確認し、適宜修正することとした。

##### 2) 『地学教育』の「IX GeoSciEd2022 島根大会」特集の準備状況について（松本一）

『地学教育』の「IX GeoSciEd2022 島根大会」特集の準備状況について報告された。近日中に大会での研究発表者に論文投稿に関する案内を送付する。